

B-49 肌着用衣料の仕上加工による吸水、透湿への影響

福女大家政 平松園江 宮崎照子 中村短大家政 O 与田ナヲ子

目的 衣料の安全性が問題となり処理剤による皮膚障害に関心が向いてきた。私共はおむつに衛生、柔軟加工をし、加工剤の種類、方法の違いで撥水性がでる事、キュプラースリッパ新品に撥水性がある事、綿布市販品も水滴消失時間に差があり仕上処理剤が吸水性に関係あることに気付いた。吸水性の良否は直接皮膚障害には関係ないが排泄成分を布に吸収し肌面を清潔にする面から影響があると綿布の処理剤の吸上蒸発量、透湿量への影響を調べた。

方法 試料は綿織物8種とスリッパ用の綿、ナイロン、キュプラの各々市販品と加工処理除毛布とした。吸上蒸発は管靴 $6 \times 6.2 \text{ cm}$ の両側に付着させた支柱に試料をスリッパでとり、蒸発面積が $5 \times 10 \text{ cm}^2$ になるよう下端を水に浸す。透湿は JIS-508 の透湿カップに水 10 cc を入れ試料をセットする。各々直示天秤で秤量し、温度 30 ± 0.5 湿度 68 ± 5 の恒温恒湿槽の回転板上で1時間放置後、減少量を直示天秤で秤量し水面からの蒸発量を差し引いた。透湿量は $10 \times 5 \text{ cm}^2$ の面積として補正した。

結果 吸上蒸発量は市販品とこれを炭酸リーダ、塩酸で処理し仕上剤を除去した物を比較するとガーゼ、さらし、粗さらし、キュプラは増大し、吸汗加工をしたナイロンは減少し処理剤の影響がある。透湿量は仕上加工剤処理や精練による影響は吸い上げ蒸発量に比べて極めて微量である。仕上加工剤の除去された綿布では吸い上げ蒸発量と布重量、布の透湿量に大きな相関がある。洗たく機洗たくによる蒸発量への影響は試料のばらつき、洗たくのばらつきが多く顕著な効果は確認できない。